

1 単元名 「わたしの町はっけん」
～わたしたちのじまんな町～

2 単元について

本単元は生活科の内容(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」、内容(4)「公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えられている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」と、かかわっているものである。

ここでは、児童が自分たちの地域に出かけて、そこで生活したり働いたりしている人々に接し様々な場所を調べたり利用したりすることを通して、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにすることを目指している。

また、地域には公共物や公共施設があること、それらはみんなで使うものであり、それを支えている人々がいることに気付くことで、公共物や公共施設を大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。さらに、子どもたちが地域での生活が広がり、充実することにつなげていきたい。

3 児童の実態(男子 14名 女子 16名 計30名) 調べたい自慢の人・地域のもの

<事前アンケート> 平成27年5月7日実施 回答数 男子14名 女子16名 合計30名

子守り神社96% 昆陽神社10% グリーンプラザ公園26% ロケット公園60%

ルネサンス46% 公民館43% 友達の飲食店60% 商店街6% 喫茶店6% 花屋3%

パン屋3% 岡野商店3% いもっこ保育園3% 4丁目公園3%

<児童の実態の考察>

アンケートの結果から、児童は、お祭りのある子守り神社を地域の自慢のものとしてとらえている。96%とほとんど全員なので、第1回町たんけんではみんなで神社へ行きお祭りについて学習することにした。学校から子守り神社の道は車が少なく、分かり易い道なので、初めての校外グループ活動には最適といえる。事前の話し合いで児童はJR幕張駅や公民館は利用したことがある児童が多いことがわかった。しかし、その周りにある昔ながらの商店街をよく知らない。その理由として買い物には近くのショッピングセンター(イトーヨーカードー)を利用する家庭が多いからである。商店街について詳しく知る児童が少ないので、第2回の町たんけんでは、昔ながらの商店街を中心に昆陽神社から公民館・交番・駅・商店街を見て、ロケット公園に辿るコースを設定し、児童の視野を広げていきたい。その上で、第3回町たんけんでは、今までに調べた子守り神社や公共施設の公民館・駅や商店街に興味をもったところに加え、町でもっと知りたい自慢の人や場所を選びグループ編成をしていき、町への親しみと愛着を深めていきたい。

4 単元の目標

- 自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの、人に出会いながら、町への親しみと愛着を深めることができる。
- 地域の人・ものにかかわりをもち、町のことを調べることができる。
- 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達に知らせることができる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
<p>○地域で生活したり働いたりしている人々や、様々な場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。</p> <p>○自分の自慢な場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達に知らせようとしている。</p>	<p>○地域の人々や様々な場所とのかかわり方や安全な生活について考え、人々と適切に接したり安全に生活したりしている。</p> <p>○表現方法を工夫して、自分の自慢な場所や人、心に残った出来事などを伝えている。</p>	<p>○自分たちの生活は、地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。</p> <p>○自分の自慢な場所や人、心に残った出来事などを、友達や地域の人に伝える楽しさに気付いている。</p>

6 単元の指導計画（全26時間）

時	学習の内容と活動	指導や支援と留意点
1	<p>○自分たちが住んでいるところを学区地図に記入し、学年の友達が幕張町のどこに住んでいるか分かるようにし、幕張町に興味をもつ。</p>	<p>○住所を基に児童の顔の絵を学区のどこかを指示する。</p> <p>○出来上がった学区地図から、友達が住んでいるところを紹介し、幕張町全体に興味をもたせる。</p>
2 ・ 3	<p>○幕張町の自慢な人・地域のものについて紹介し合う。</p> <p>・幕張町の自慢な人やものについて、「みつけたよカード」に記入する。</p> <p>・自分の自慢な町について発表する。</p> <p>○町の自慢なところ・楽しかったことについてでてきた「お祭り」について話し合う。</p>	<p>○自慢という言葉が教師が意識して使い、子どもたちにも、その言葉を意識させるようにさせたい。</p> <p>○お祭りに参加したときの気持ちを発表することで探検に行く気持ちを盛り上げる。</p>
4	<p>○子守り神社の探検する計画を立てる。</p>	<p>○道路の歩行の仕方など安全について確認する。</p> <p>○挨拶の仕方や聞き方や話し方について指導する。</p> <p>○カードに目を通し、質問の内容を子守り神社に連絡しておく。</p>
5 ・ 6	<p>○第1回「町たんけん」に行く。</p> <p>○教えてもらったことを「カード」にメモをする。</p> <p>・お祭り</p> <p>・7年祭</p> <p>・何を祭っている神社なのか</p> <p>・参拝の仕方</p>	<p>○町たんけんは安全のためチームティ칭ングで行う。車椅子対応する教師をつける。</p> <p>○子守り神社に行き、見つけたり聞いたりしたことを話し合うことで自慢の場所の一つという気持ちをもてるようにする。</p>
7	<p>○自分の自慢したいことを付箋に書き、地図に貼る。</p>	<p>○学区の知らないところにも興味をもてるように町地図に自慢したいことを付箋に書くことで今後の見通しがもてるようにする。（赤色が人、黄色がもの）</p>

8	○第2回町たんけんの計画を立てる。	○自慢な場所を商店街のお店や公民館・駅にした児童から話を聞き、行きたいという意欲を高める意欲化を図る。 ○安全な歩行の仕方の確認。 ○お店に迷惑がかからないようにするため、時間帯・安全に配慮するとともに店先で子どもたちに声をかけてもらえるように頼んでおく。
9 ・ 10	○「第2回町たんけん」に出かける。	○生活班で活動する。 ○町の地図をもたせ商店街の位置を確認させる。 ○安全のため交差点に保護者からボランティアを集う。
11	○「第2回町たんけん」に行き、見つけたことなどを伝える。	○自分の自慢な場所や人、心に残った出来事などをたんけんカードに書いたり付箋を地図に貼ったりして共有化するようにする。
12 <small>(本時)</small>	○自分たちの目あてや調べる方法を明らかにし、「第3回町たんけん」の計画を立てる。 ・学級で話し合う。	○児童が自分の調べたい人・ものについて興味を広げるために、付箋の地図を活用する。 ○お囃子をしているゲストティチャーを学校に招きお祭りにかかわる話をしてもらう。
13 14	・学年で話し合う。	○挨拶の仕方やインタビューの仕方を確認する。 ○行き先が一人・二人になったころグループは学年で調整する。 ○二つ目の調べたいところの計画が立てられるように助言する。 ○グループごとに安全について話し合う。
15 ・ 16	○「第3回町たんけん」に出かける。	○自慢したい人・もののグループごとに活動させる。 ○安全のため、保護者からボランティアを集う。 ○教師が、一緒になって地域の人々とかかわる姿をみせることで、人に対して意識化が向くようにする。
17	○「第3回町たんけん」で見つけたことなどを伝え合う。	○活動したことに満足している姿に伝えたいという気持ちの高まりを大切に、発表会へのきっかけになるようにする。
18 ~ 22	○町たんけんして、見つけたこと・気付いたことを見直す。 ・今まで書いたカードを整理する。 ・自分の自慢の場所を決める。	○地域の中で親しくなった人や愛着をもった場所が増えたことに気付くように地図・カード活用する。 ○だれに発表を聞いてもらうか児童の考えを大切に決めて決める。

23 ~ 25	○町の自慢の発表会の準備をする。	○だれに発表を聞いてもらうか児童の考えを大切に にして決める。 ○発表方法を提示したり、教師と一緒に考えたりし ながら効果的な発表ができるようにする。 ○必要に応じて、再度探検に行けるようにする。
26	○発表会をする。	○教師は児童の支援ができるような場所にいる。 ○今までの活動を価値づけたり、児童の思いや願い をできるだけ実現できるようにしたりすること で、地域のよさを実感できるようにする。

7 部会研究課題とのかかわり

研究課題（1）学校や地域の特色を生かした単元開発

○昔ながらの地域と新しい地域、互いのよさに目を向ける

本校は創立144年目を迎え、校庭には二宮尊徳の像がある古い学校である。町の歴史も古く、秋に行われる子守り神社の祭礼は、大変な賑わいを見せる。児童も神社にお参りを済ませてから出店に向かう習慣を持っている子も少なくない。そのため、町の自慢というとお祭りをあげる児童が多い。その他にも、山田耕作の石碑や青木昆陽ゆかりの昆陽神社などたくさんの自慢できそうなものがある。しかし、児童は普段目にしていて、特別な関心を持つこともない。そこで、地域の伝統のあるものを町の自慢の1つとして目を向けさせたい。

また、幕張には古くからの商店街もあり、そこで働く人々の中には、腕のいい職人さんやこだわりを持つ団子屋さんなどいろいろな人がいる。また、児童に優しく接してくれる方もいる。そういう人の厳しきや温かさにも触れる機会を与えたい。このような活動をすることで、探検を通して、自分の住むこの幕張の町に愛着を深めることができると考えた。

○ゲストティチャーの活用

お祭りにかかわるお囃子をしている代表の方を呼び、お祭りを通して体験を聞くことにより地域の人とのかかわりを深め、児童にお祭りに対するいいものだという思いをもたせたい。

児童の自慢の人の中から、セーフティーウォッチャーの方があがった。地域には子どもたちを守る方がいることを知り、安全な生活について深め、感謝の気持ちを育てたい。

研究課題（2）子どものこだわりやよさを見つけ、やる気を引き出す支援のあり方

○「見たい」「知りたい」といった目的意識をもって探検する

単元の計画として、最初に児童が考える町の自慢な人・ものについて発表し合う活動を行う。町の地図に自慢な人・もののお気に入りのところに付箋を貼り、他の児童に広げていきたい。その自慢な人・ものを確かめに学級全体で探検に行く。その後「公民館にいきたい」「メロンパン屋さんに行ってみよう」といった目的が何を見たいか、何を知りたいかという目的をもって探検に行けるようにする。そのためには、学級全体で探検したときに、このメロンパン屋さんは、〇〇先生のお気に入りなんだよ。」などと紹介したり、お店の人に歩く時間をあらかじめ伝えておき、声を掛けてもらうようにしたりする。そうすることで、「もっとメロンパン屋さんのことを知りたいな。」といったような思いもてるようになる。子どもたちから意見が少なかった場合には、「団子屋さんの昔から作っていて1日たっても、硬く

ならないんだよ。」「肉屋さんコロッケは昔ながらのコロッケで大きいんだよ。」「お茶屋さんは商店街の会長さんでこの商店街のことを詳しんだよ。」など教師が知っている事柄を紹介するようにする。このように一人一人が何を知りたいか、何をみたいかという目的をしっかりとって探検に行けるよう支援にあたりたい。

○繰り返し探検することで、思いを叶える

子どもたちが地域の人たちとかかわり合いながらこだわりをもって探検を行うためには、繰り返し探検をすることが大切だと考える。そのためには探検する機会を1度ではなく、3度設定する。第1回町探検では児童の多くが興味をもつ「お祭り」にかかわる子守り神社に行く計画をし、昔ながらの町や行事に着目させていきたい。第2回の町たんけんでは公共施設や商店街について詳しく知る児童が少ないので見て回る計画を立てた。そして、第3回では今までに調べた子守り神社や公共施設の公民館・駅や商店街で興味をもったところに加え、町地図に友達が貼った付箋を見て、興味をもつ所へ町探検を行いたい。

研究課題（3）子どもに培いたい学びの力、またそのための手立てを明らかにした授業づくり

○活動の中で「適切にかかわり合うことの大切さ」を感じ、身につける

学習を進めていくと、地域の人々について「もっと知りたい」「もっと親しくなりたい」という思いや願いが生まれてくることが考えられる。この思いや願いを実現させるためには、人々と適切に接することが、必要になってくる。しかし、子どもたちは経験が少ないため、最初は挨拶ができなかったり、自分の思いばかりが先行して都合を尋ねてから質問をしたりすることができないのではないかと考えられる。もちろん、探検に行く前に最低限のルールやマナーは話し合うが、探検に行き、身をもって「かかわり合う」ということを意識できるようにしたい。そして、その中で「おはようございますってあいさつをしたらおはようございますって、元気に挨拶を返してくれて気持ちよかった。」など、マナーを守ることで互いに気持ちよく生活できるという体験を重ね、子どもたち自身が人々と適切に接する態度を身に付け、地域のよさについてより理解を深め、地域の人々のもつ願いをしっかりと受け止め、生活に生かせるようにしたい。

○安全に対する意識を高める

学校の外に出での活動は、子どもたちにとって気持ちが高ぶる子もいる。一方、自分たちだけで行けるかと不安になる子もいるのではないかと予想される。そこで、どの道を通っていくのか、危険な所はないかなど、安全についてもグループでしっかりと話し合ってから探検に出かけるようにする。また、探検から戻った際には危ないところがなかったかを学級全体で話し合い、次回の探検に生かせるようにする。各グループが地域で安心して生活できる場を感じることができるようになりたい。

○表現方法、伝える相手を考えた発表をする

町探検をした後は、自分の発見を伝えたい、友達がどんなことを聞いてきたのか知りたいという思いが生まれる。その思いを大切にしながら、町たんけんの内容を発表する活動を行う。2年生ということもあり表現方法を多く知らないという実態がある。そこで、教師が表現方法を教えたり、一緒に考えたりするとともに、教科書に載っている例など紹介しながら多くの表現方法があることを学ばせたい。また伝えたい相手をだれにするか子ども自身に考えさせ、充実した発表会にしたい。

8 本時の指導

(1) 本時の目標

○自分の自慢したいところをはっきりさせて、探検したい場所を決めることができる。

(2) 展開 (12/26)

主な学習活動と内容	指導や支援の留意点	資料
1 前時までの学習を確認する。		
自分のたんけんしたいところをきめよう		
2 自分の町の自慢な人・ものについて発表する。	○子どもの考えを広げるため、事前に町の地図に貼ってある付箋を確認し、発表する児童や、順番を決めておき指名する。	町の地図 赤色付箋 (人) 黄色付箋 (もの)
・公民館	・公民館	
・メロンパン屋	・メロンパン屋	
・セーフティーウォッチャー	・セーフティーウォッチャー	
・お祭り	・お祭り	
3 ゲストティチャーの話を聞く。	○ゲストティチャーに活動の内容や願いについて事前に確認する。	ゲストティチャー
・お囃子会の方	○ゲストティチャーのように素敵な人が他にもいるか目を向けさせたい。	
3 たんけんしたいところを決める。	○たんけんカードに探検したいところ・選んだ理由を書かせる。	たんけんカード
	○理由を書くとき、地図の付箋や友達の発表などを参考にしてよいことを話す。	
4 同じ調べたい所や人についてグループを作り、行きたい理由を話し合う。	○グループ編成は自分の思いを大切にするために行きたい場所ごとにする。同じ場所・人を希望する人が少なく、少人数になったグループは次回、学年で調整することをつける。	絵本の部屋
5 話し合いに出た内容をグループごとに全体で話し合う。	○調べることや見るところなど、友達の話を聞き、わたしたちの町の自慢な人・ものについて考えを広げる。	2-1 教室
6 振り返りカードを記入する。	○今日の学習の振り返りをさせ、次回の意欲化を図る。	振り返りカード
7 次回の学習の確認をする。	○次回、学年で活動することを伝える。	